

クラス	TU305	担当教員	亀谷 和史
( ^ ! ^ ) /	テーマ	乳幼児の発達を学び、「保育（者）の専門性」を深める	
	著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践Ⅱ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2016年、『同Ⅰ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2013年、「アンリ・ワロンの人格発達理論における『機能連関』と『指向性機能』に関する一考察」（『日本福祉大学子ども発達学論集』第8号・2016年）、『現代保育と子育て支援—保育学入門（第版）』亀谷和史編著（八千代出版）2008年、など。	

### ゼミナール概要

キーワード： 乳幼児期、発達、保育実践、保育（者）の専門性、幼保一元化（「幼保一体化」）

#### [目的、内容、等]：

- ◎このゼミでは、「乳幼児の発達過程」と「保育（者）の専門性」に関して学びます。各自の研究課題を中心に、グループを作り、グループごとに探求・発表していきます。
- まず第1に、テーマに掲げたように、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、自我の発達や愛着形成（あるいは愛着障害）などを学びます。
  - ・まず、誕生からおおよそ、3歳までの発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。要するに、「赤ちゃん」の発達を専門的に深めていきます。
  - ・次に、幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達の視点から保育実践の課題についても学習します。ビデオ学習なども行います。
  - ・以上の乳幼児期の発達を踏まえたうえで、「保育（者）の専門性」とは何か、について研究していきます。
- \*私は、アンリ・ワロンというフランスの発達心理学者(精神医学者でもあった有名な学者)を研究しています。ワロンという人は、ボウルビーが「愛着」の重要性を指摘する前から、乳幼児期の「情動交流」や「共感」関係の重要性を発達の最初の段階として研究した人です。ゼミでは、ワロンの発達論の学習もします。
- 第2に、2015年度から「子ども・子育て支援新制度」が始まり、保育所、幼稚園、(幼保連携型)認定こども園、小規模保育施設など、保育・幼児教育の制度が「多様化」し、「保育の質」の格差が生じかねない仕組みが始まっています。そこで、今、課題となっている保育の諸政策に関して学習していきます。
  - ・待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」も取り上げて、皆さんと考えていきたいです。

#### [方法等、ゼミの進め方、等]

- ゼミでは、毎回、あらかじめスケジュールを決めて、グループあるいは個人で、順番に指定文献(テキスト)を精読し、さらに独自に学んだり調べたりした内容を加えて、要旨をまとめ、プレゼンテーション(発表)します。担当教員が、ミニ・レクチャーを行う場合もあります。
- 後半では、グループあるいは自分自身のテーマや課題を決めて、スケジュールをあらかじめ決めて、順に発表します。そして卒業研究の準備に向けて取り組みます。
- 乳幼児の発達に関心のある人、学ぶ意欲とやる気のある人は、歓迎です。しっかりと、志望動機(エントリーシート)を書いてください。
- 認定こども園や夜間保育園、子育て支援センターなどにテーマを定めて調査研究や見学も予定しています。
- 夏休み後半にゼミ合宿を予定しています。(今から合宿代2万~3万円を貯めておいてください。)(\*ちなみに2016年度は、京都のみつばち保育園というさくらんぼ系の園に見学訪問に行きました。)
- 3年生の後期からそろそろ、本格的には4年生になって、卒業研究に取り組みます。個人でテーマを決めて、専門演習Ⅱ論文(=卒業論文)として執筆します。(\*毎年、3年生と4年生合同の卒業研究発表会を予定しています。)
- 4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生に発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。
- みんなで、有意義で楽しいゼミをつくっていきましょう (^ ! ^ ) /

#### 使用テキスト

皆さんと相談して決めますが、とりあえず、堀尾輝久著『子育て・教育の基本を考える』(童心社)2007年

担当教員からのメッセージ ↑上にいっしょに書きました↑